



慶應義塾大学医学部開設100年記念 講演シリーズ

日時:2017年5月16日(火)-19日(金)16:30-18:00

場所:信濃町キャンパス 総合医科学研究棟1Fラウンジ

* セミナーは英語で行います * 参加自由



「分子生物学とともに歩んだ60年： RNA研究からゲノムプロジェクト、そして老化の解明へ」 英題：From the Genomic Project to the Nature of Aging

【Speaker】デービッド・スレシンガー博士 / Dr. David Schlessinger
米国国立衛生研究所 (NIH)・国立老化研究所 (NIA)
慶應義塾大学スーパーグローバル事業 海外副指導教授/
NIH Distinguished Investigator, National Institute on Aging

◆5月16日 (火) 16:30-18:00

講演1: 「サルジニア島プロジェクト: ヒト老化を理解するための遺伝学コホート研究」
LECTURE 1. SardiNIA Project: population-based human genetic analysis to understand aging.

1997年-現在。アメリカ国立老化研究所・老化縦断コホート研究の紹介。
ヒト集団遺伝学研究による遺伝病へのアプローチ: サラセミアと自己免疫疾患を中心に。

共催: 医学部公衆衛生学教室 (武林 亨教授), 医学部坂口光洋記念講座システム医学教室 (洪 実教授)

◆5月17日 (水) 16:30-18:00

講演2: 「発生ゲノム学と遺伝学: 皮膚付属器官の疾患モデルを中心として」
LECTURE 2. Developmental genomics and genetics: the model of skin appendages.

1997年-現在。アメリカ国立老化研究所・遺伝学研究部門の紹介。老化を発生学の観点で見る。
皮膚付属器官の発生と再生。

共催: 医学部皮膚科学教室 (天谷 雅行教授), 医学部坂口光洋記念講座システム医学教室 (洪 実教授)

◆5月18日 (木) 16:30-18:00

講演3: 「リボゾームDNA解析とヒトゲノムプロジェクトの始まりと終わり」
LECTURE 3. rDNA analysis and the start and completion of the Genome Project.

1957年-現在。クリックの仮説。リボゾームの解析。リボゾームサイクルと抗生物質の働き。
ヒトリボゾームの解明へ。大規模ゲノムプロジェクトと最初のゲノムセンターであったワシントン大学、
医学における遺伝学研究センターの設立へ。サイエンスと同じぐらい重要であったロジスティクスと
組織づくり。クローン・シーケンス、病気関連遺伝子の発見。初めに戻ることに: ヒト遺伝子多型の
カタログの完成、リボゾームDNAとミトコンドリアDNA。

共催: 医学部分子生物学教室 (塩見 春彦教授), 医学部坂口光洋記念講座システム医学教室 (洪 実教授)

◆5月19日 (金) 16:30-18:00

講演4: 「遺伝学と老化: 体の機能が失われていく過程を定量化する」
LECTURE 4. Genetics and rates of aging: quantifying loss of reserve.

2001年-現在。ヒトの老化のモデル。卵巣: 卵包の発生分化と閉経のタイミング。腎臓: 過形成と
ネフロン喪失。微小循環: 画像解析と人工知能。特徴抽出と機械学習による老化と老化速度の定量化。

共催: 医学部産婦人科学教室 (田中 守教授), 医学部坂口光洋記念講座システム医学教室 (洪 実教授)

お問合せ先: 医学部 坂口光洋記念システム医学講座
池田 03-5843-6176 (内線:63652)



Keio Global Initiatives
Longevity, Security, Creativity

